

検討の観点と内容の特色

①学習指導要領とのかかわり		
●教科目標達成への配慮はどうか		
<ul style="list-style-type: none"> 平成 24 年度用美術科教科書においては、教育基本法、学校教育法に示された義務教育の目標の達成を大きな枠組みに据え、新学習指導要領における美術科の「目標」である「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」を編集の基盤に置いており、極めて適切である。 学習指導要領に示された「目標」「各学年の目標及び内容」「指導計画の作成と内容の取扱い」をふまえて、課題の精選や配列を工夫するとともに、各題材の学習のねらいを明確にし、目標の達成を支援する適切な解説が付されており、極めて適切である。 具体的な各題材の内容構成については、学習目標や学習の具体的な方法、それぞれの学習題材において培いたい資質や能力を整理して具体的に紙面に示し、全体として美術科の目標を達成できるように配慮されており、極めて適切である。また、すべての生徒にとってわかりやすく、見やすい魅力的な紙面で、楽しく充実した学びを目指すとともに、学習活動の見通しと振り返りを示すことで、生徒の自立を促し、「美術文化の学習を通した人間教育」の実現を図ることを心がけており、極めて適切である。 	全題材	
●表現と鑑賞の内容の扱いは適切か		
<ul style="list-style-type: none"> 第 2 学年と第 3 学年では、学習指導要領の「目標」及び「内容」が 2 学年まとめて示された趣旨をふまえて、第 2 学年及び第 3 学年の一体化した学習をより強化し、表現と鑑賞の学習の深まりを促すために 1 冊にまとめ、効率のよい学習が展開されるように示されており、極めて適切である。 目次（p. 2）には、題材名とページ番号に加えて、学習指導要領に示された領域内容を色分けで示すとともに、各題材ページにも色分けによる色帯で示されており、極めて適切である。 	2・3年全題材	
●【共通事項】への配慮はどうか		
<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の【共通事項】を踏まえ、表現及び鑑賞のすべての学習活動において、必要な資質や能力となる【共通事項】について、生徒自身が意識して題材に取り組めるように、各題材の主文や学習の観点、作品解説文や各題材の末尾に設置された学習の振り返りなど、教科書全体を通して形や色に注目させ、自分のイメージを明確にもって取り組めるように示されており、【共通事項】の示し方として極めて適切である。 	全題材	
②題材の編成について		
●発達の段階に即して適切な配列がされているか		
<ul style="list-style-type: none"> 題材は、表現及び鑑賞領域の内容構成ごとに、系統性をもたせてバランスよく配列されている。第 1 学年では小学校図画工作科での学習をもとに中学校美術科の基礎的な内容を幅広く学習することを、第 2・3 学年では第 1 学年での学習をもとに、表現の学習を深めたり、表現と鑑賞の学習の深まりを促したりすることを目的として構成され、3 年間を見通した柔軟な学習計画に対応することができ、極めて適切である。 表現の学習と鑑賞の学習の関連を重視し、第 1 学年の学習から第 2 学年及び第 3 学年の学習へと、その内容の深まりと広がりが考慮されているとともに、鑑賞題材の充実が図られている。また、生徒の興味・関心を喚起するような身近な造形から造形芸術、美術文化へと学習の程度を深めたり発展させたりできるように配慮されており、極めて適切である。 描く活動とつくる活動のバランスが配慮されているとともに、共同で行う表現活動や、作品の発表や批評し合うこと、地域の伝統から学ぶことなどを目的とする題材が各巻に適宜設定されており、極めて適切である。 	全題材	
<ul style="list-style-type: none"> 1 年 p. 2～4「図画工作から美術へ」、p.18～21「彫刻動物園」、p.22～25「生活を豊かに」、p.30・31「変化させる絵」、p.34～37「美しさの交流」、p.38・39「隣の国々アジア」、p.42・43「のぞいてみよう、美術館」／2・3年 p. 8・9「美術のちから」、p.24～27「驚きの世界へ」、p.28～31「伝統の美に学ぶ」、p.36～39「空間を感じて」、p.44・45「デザイン行動」、p.46～49「学校紹介プロジェクト」、p.58～61「人がつくる、技を極める」、p.68・69「江戸のデザインセンス」など 		

●小学校や高等学校などのつながりに配慮されているか			
<ul style="list-style-type: none"> 小学校図画工作科における学習経験をもとに、高等学校芸術科美術、工芸への発展を考え、中学校段階の感性や各種能力の発達に対応する系統的な題材によって構成されており、極めて適切である。 第 1 学年では、小学校図画工作科での学習と中学校美術科の学習を関連づけて理解できるように、わかりやすく提示されている。また、第 2 学年と第 3 学年では、美術科の学習の目的や意義を確認できるようになっており、極めて適切である。 	全題材		
③内容の適切さについて			
●主体的に学習に取り組む工夫がされているか			
<ul style="list-style-type: none"> 一つの題材で数種の学習方法を提示し、生徒の興味・関心や授業時数、材料などに応じて選択できるようにすることで、柔軟な指導計画に対応できるようになっており、極めて適切である。 生徒の活動場面や作家の制作場面を重視し、情景写真を多用することによって学習意欲が高まるように配慮されており、極めて適切である。 各題材の学習を深め、発展させるとともに、学習への興味・関心を高める情報を囲み記事にし、コラムとして設定されており、極めて適切である。 	全題材		
<ul style="list-style-type: none"> 題材ページに関連する題材を脚注に示し、生徒の意欲や興味・関心に応じて主体的に関連ページを参照できるように工夫されており、極めて適切に工夫されている。 	1 年 p.12・13「広がる形や色から」、p.14・15「写し取る形」、p.22～25「生活を豊かに」、p.30・31「変化させる絵」、p.34～37「美しさの交流」、p.38・39「隣の国々アジア」、p.40・41「私の歩み」／2・3年 p.10～13「風景が語るもの」、p.16～19「自分探しの旅」、p.20～23「描かれた人が語るもの」、p.24～27「驚きの世界へ」、p.28～31「伝統の美に学ぶ」、p.36～39「空間を感じて」、p.40・41「人の形に込めたもの」、p.46～49「学校紹介プロジェクト」、p.58～61「人がつくる、技を極める」、p.72・73「願いや祈りの形」、p.76・77「抽象から空間の表現へ」、p.78・79「ルネサンスの美術」、p.84・85「生きることと美術」、p.89～91「色彩ホームページ」など		
●培われる力が明確に示されているか			
<ul style="list-style-type: none"> 各題材で大切にしたい重点的な学習活動を「学習のねらい」として 4 観点（「関心・意欲・態度」「発想・構想」「創造的な技能」「鑑賞」）によってわかりやすく簡潔な文章で最初に明示されているとともに、それらをもとにした自己評価の観点が「学習の振り返り」として各題材の末尾に示されており、極めて適切である。 各題材の中で育む美術の基礎的な能力を明示し、それぞれの学習に必要な技法や知識が豊富に提示され、極めて適切である。 	全題材		
●掲載作品が適切に選択されているか			
<ul style="list-style-type: none"> 第 1 学年の題材を基本とし、第 2 学年及び第 3 学年の題材へと学びを深め、3 年間の学習を見通した題材設定がなされており、また、その中で発達の段階に即して掲載作品が取り上げられており、極めて適切である。 掲載作品は、日本・西洋・アジアの各地域、また、古代から現代までの各時代などに偏りがないように選定され、作家作品と生徒作品がバランスよく配置されている。 	全題材		
●基礎・基本の重視や安全についておさえられているか			
<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な技法や制作のプロセス、発想の手立てや知識などが囲み記事で豊富に掲載され、学習の便が図られるとともに、各題材には「小見出し」が設けられ、どのように学習を進めていくのか学習のポイントが示されているので、免許外の先生にも教えやすくなっており、極めて適切である。 基礎的な技能や、安全で効果的な道具の扱いについての基本的な知識、色彩についての理解などは、各自の特徴ある表現を支える学びとして、より具体的にわかりやすく系統的に学習する必要があることから、これらを巻末にまとめて提示することによって、効率よく多様な題材の学習に対応できるように配慮されており、極めて適切である。 必要に応じて題材の欄外に脚注を設け、基本的な用語などに解説が付されており、適切である。 	1 年 p.12・13「広がる形や色から」、p.14・15「写し取る形」、p.30・31「変化させる絵」／2・3年 p.10～13「風景が語るもの」、p.36～39「空間を感じて」、p.44・45「デザイン行動」、p.46～49「学校紹介プロジェクト」など		
<ul style="list-style-type: none"> 1 年 p.26～29「お気に入りの囲まれて」、p.38・39「隣の国々アジア」／2・3年 p.20～23「描かれた人が語るもの」、p.58～61「人がつくる、技を極める」など 			

	<p>●表現の指導が適切に行えるように配慮されているか</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識や技法の理解をもとに、発達段階に応じて自分自身の工夫を生かしていくことができるような題材設定がなされており、極めて適切である。 学習内容を精査すると同時に、学習の深まりや広がり重視し、各題材の学習目標や内容に応じて1単元2ページ構成だけでなく、主に表現題材では、4ページ構成とするなど、多様な実践に対応して授業が広げられるように示されており、極めて適切である。 多様な材料や表現を学習できる作品例を数多く取り上げ、生徒の個性に対応できるように示されており、極めて適切である。 	<p>全題材</p> <p>1年p.8～11「心ひかれる風景」(絵)、p.18～21「彫刻動物園」(彫刻)、p.22～25「生活を豊かに」(デザイン)、p.26～29「お気に入りに入れて」(工芸)、p.34～37「美しさの交流」(鑑賞)／2・3年p.10～13「風景が語るもの」(絵)、p.16～19「自分探しの旅」(絵)、p.24～27「驚きの世界へ」(絵・彫刻・デザイン・映像)、p.28～31「伝統の美に学ぶ」(絵・デザイン・工芸)、p.36～39「空間を感じて」(彫刻)、p.46～49「学校紹介プロジェクト」(デザイン)、p.54～57「つくる・使う・楽しむ」(工芸)など</p> <p>全題材</p>
	<p>●鑑賞の指導が適切に行えるように配慮されているか</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の学習にあたっては、大型図版の掲載や折り込みページの活用によって鑑賞学習の充実を図るとともに、鑑賞学習の導入もしくはきっかけとなる「問いかけ」を設定し、鑑賞学習への興味・関心を高めるように工夫されており、極めて適切である。 各巻の折り込みページは、単なる大型図版を提示するのではなく、それぞれの学習内容を多角的に考察できるようワイドな構成を生かし、その中から生徒の視点を広げることを目的としており、極めて適切である。 また、第2学年と第3学年では、美術史のエボックとなった事柄や美術に関する今日的な課題については「資料」として取り上げ、生徒の表現活動に適宜資するように配慮されている。 作家作品や生徒作品の、作家や作者の言葉を数多く掲載して、それぞれの作品を取り上げた意図を明確にするとともに、掲載作品の鑑賞をわかりやすくして、学習活動の参考になるように示されており、極めて適切である。 	<p>全題材</p> <p>1年p.2～4「図画工作から美術へ」、p.5～7「表現の始まり」／2・3年p.3～7「教科書美術館へようこそ」、p.62～64「平和、命、つながり」、p.65～67「物語を描く」</p> <p>2・3年p.78～79「ルネサンスの美術」、p.80～81「ジャポニスム」、p.82・83「美術を身近なものに」、p.84・85「生きることと美術」</p> <p>全題材</p>
	<p>●伝統文化や地域性への配慮はどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現題材では、全国的に入手可能な材料を扱うとともに、各地域独自の材料も豊富に取り上げられており適切である。 わが国の宝である国宝や重要文化財については特に印を設けて明記されており、伝統文化を尊重する態度を養うために極めて適切である。 さまざまな伝統文化や世界遺産、地域独自の建造物などを扱うとともに、地域・社会とのかかわりを豊富に取り上げており、極めて適切である。 第2学年と第3学年では、美術の学習の意義を考え、美術科で育てた力を社会との関連においてどのように生かすかを、中学校3年間のまとめと位置づけて題材が設定されている。 	<p>1年p.18～21「彫刻動物園」、p.34～37「美しさの交流」／</p> <p>2・3年p.8・9「美術のちから」、p.54～57「つくる・使う・楽しむ」など</p> <p>1年p.34～37「美しさの交流」／</p> <p>2・3年p.72・73「願いや祈りの形」、p.86～88「美術の流れ」など</p> <p>1年p.34～37「美しさの交流」、p.38・39「隣の国々アジア」／</p> <p>2・3年p.58～61「人がつくる、技を極める」、p.74・75「風土を生かして」など</p> <p>2・3年p.50・51「時代を見つめる」、p.62～64「平和、命、つながり」、p.84・85「生きることと美術」、p.92・93「暮らしや生活の中にある美術」</p>
	<p>●国際理解やアジアの文化の扱いはどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> アジアの国々の生徒作品や作家作品、建造物などが適宜扱われるとともに、外国の学校との共同制作の事例が取り上げられている。また、年表ではアジアの項目を特別に起こすなど適切に扱われているので、国際理解やアジアの文化へを理解するうえで極めて適切である。 	<p>1年p.38・39「隣の国々アジア」／</p> <p>2・3年p.86～88「美術の流れ」など</p>
	<p>●言語活動を充実させるための配慮はどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合ったり、批評し合ったりする活動が積極的行われるようにするために原則としてすべての生徒作品に作者の工夫点などのコメントを付すとともに、自分の主題などについて発表し合ったり、説明し合ったりする活動が豊富に取り上げられており、極めて適切である。 鑑賞作品においては、感じ取ったよさや美しさをもとに作品などに対する思いや考えを説明し合ったり批評し合ったりする活動のきっかけとなるような文言が添えられており、極めて適切である。 共同で制作する活動や各自の作品を共同で展示し、生活に生かしている事例が豊富に取り上げられ、言語活動が無理なく充実するように配慮されており、極めて適切である。 	<p>1年p.34～37「美しさの交流」、p.40・41「私の歩み」／2・3年p.44・45「デザイン行動」、p.46～49「学校紹介プロジェクト」など</p> <p>1年p.8～11「心ひかれる風景」、p.32・33「主役を探そう」／2・3年p.14・15「奥行き表現」、p.40・41「人の形に込めたもの」など</p> <p>1年p.18～21「彫刻動物園」、p.22～25「生活を豊かに」／2・3年p.24～27「驚きの世界へ」、p.28～31「伝統の美に学ぶ」など</p>

	<p>●平和教育や人権の配慮はどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発表したり、友人などの考えを聞いたりする活動を通して、自己と他者、社会とのかかわりに気づき、互いのよさや違いを認め合うことから人権への意識が高められるように題材や活動が設定されており、極めて適切である。 特に2・3年においては美術の表現と鑑賞を通して、身近な生活から平和や生きること、表現することの意味が考えられるように題材が設定されており、極めて適切である。 	<p>1年p.34～37「美しさの交流」、p.38・39「隣の国々アジア」／2・3年p.16～19「自分探しの旅」、p.44・45「デザイン行動」など</p> <p>2・3年p.62～64「平和、命、つながり」、p.84・85「生きることと美術」</p>
	<p>●美術館などのかかわりについての扱いはどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国のさまざまな美術館などの収蔵作品が取り上げられ、1年では特に美術館の取り組みについて題材が起こされており、極めて適切である。 	<p>1年p.34～37「美しさの交流」、p.42・43「のぞいてみよう、美術館」など</p>
	<p>●表記・表現について</p> <ul style="list-style-type: none"> 題材名とサブタイトルによって学習内容が明確に示されているとともに、その横に「学習のねらい」を観点別に示し、何をどのように学習するのかがわかりやすく提示されている。また、本文は簡潔であり、学習意欲を高めることができるように配慮されている。 作品の解説は、鑑賞するポイントや学ぶべき点が明確に示され、生徒の心情に届くように配慮されており、極めて適切である。 	<p>全題材</p> <p>全題材</p>

④写真・図解・レイアウト・造本などの適切さ

	<p>●図版・図解が適切に扱われているか</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品の鑑賞が深まるように、必要に応じて部分拡大と組み合わせるなど、その題材に適した撮影を心がけており、極めて適切である。また、作品の再現性が重視され、鮮明な写真が使われるとともに、理解しやすい図解が掲載されている。 	<p>全題材</p>
	<p>●レイアウトが適切にされているか</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術科の教科書であるがゆえに求められるデザイン性や美しさなどが配慮され、レイアウトや体裁、色彩の豊かさなどを追求して生徒の美的感覚や情操を刺激し、最も身近で生涯にわたっての「美術書」となることを目指して作成されており、極めて適切である。 	<p>全ページ</p>
	<p>●弱視への配慮がされているか</p> <ul style="list-style-type: none"> 読みやすさとわかりやすさを重視した構成がなされ、特に、弱視への配慮として、文字は白地や薄い色の上に黒色で印刷するとともに、大きさにも注意して、図版サイズも読み取りやすさが重視されており、極めて適切である。 	<p>全ページ</p>
	<p>●印刷・製本は安全かつ環境に配慮された形で適切にされているか</p> <ul style="list-style-type: none"> 再現性の高い写真原稿などを使用し、紙質や紙色などにも細かな配慮をして、最適のコート紙を厳選している。 	<p>全ページ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 今日的な環境問題にも配慮し、すべて再生紙を使用するとともに、インキはリサイクルしやすく、また、人体への影響が少ない大豆インキが使用されている。 	<p>全ページ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 最新の印刷技術を駆使し、作品のもつ微妙なニュアンスや質感などが忠実に再現されており、適切である。 開いたときの使いやすさと堅牢さを考慮して、ミシン綴じ、見返し付きとなっており、表紙はビニール加工をすることで長期間の使用に耐え得るようになっている。また、裏表紙には学年・組・氏名などを記入できる欄が設けられ、グラビア印刷をすることで、記入にあたって、にじみなどができないように工夫されている。 	<p>全ページ</p>
	<p>●装丁の工夫はどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 表表紙の作品は、単に美術館の中に収められた作品を取り上げるのではなく、第1学年、第2・3学年ともに「社会とともに生きる美術」をテーマにし、オープンスペースにある美術作品を取り上げて、それぞれ選定・撮影されているのは適切である。 裏表紙は、第1学年は「驚き・発見」をテーマに、美術の表現活動にかかわるイベントを取り上げ、第2・3学年は「暮らしと文化」をテーマに、日本と西洋の建築物が取り上げられているので、表表紙と合わせて鑑賞の授業で使用することもできるなど高度に配慮されている。 	<p>1年表表紙／2・3年表表紙</p> <p>1年裏表紙／2・3年裏表紙</p>

⑤総括

	<ul style="list-style-type: none"> 美術としての教科目標の達成に向けて、新鮮で魅力的な題材が系統的・発展的に構成され、中学校段階の特性や各種能力の発達に対応できるものとなっており、極めて適切である。
	<ul style="list-style-type: none"> 実際の授業の展開を踏まえ、表現と鑑賞が一連の学びとして示されていることは、学習指導要領の趣旨を生かしており、極めて適切である。
	<ul style="list-style-type: none"> 他社と比較して生徒作品数が圧倒的に多いことは、生徒の個性に対応できるとともに、表現の多様性を示していることにもつながり、極めて適切である。